



Lend a Hand
手を貸そう

国際ロータリー第2750地区多摩東グループ
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2004-3-3 第643回例会 NO.14-32 2004-3-10 発行

◎司会 SAA委員会 杉野志保子

◎点鐘 会長 大松 誠二

◎国歌斉唱
ロータリーソング「奉仕の理想」
ソングリーダー 吉沢 洋景

◎お客様紹介 会長 大松 誠二

- ・東京学芸大学教授 宮崎 義憲 様
- ・多摩青年会議所 理事長 馬場 孝幸 様
- ・ " 副理事長 渡辺 勝之 様
- ・ " 専務理事 岡田 一枝 様
- ・米山奨学生 金 今 善 様

◎会務報告 会長 大松 誠二

- ・国際ロータリー第2750地区・2003～04年度地区大会(2月26日～27日)が開催されました。参加の会員の皆さま、お疲れ様でした。
マジアベRI会長の「Lend A Hand—手を貸そう」を踏まえて、「あなたのクラブに手を貸そう。あなたの天職に手を貸そう。あなたの地域社会に手を貸そう。そして、世界に手を貸そう。」の方針を、鈴木ガバナーが強く呼びかけました。大会のテーマは『100周年へのプロローグ いま、チャレンジのとき』でした。
ロータリークラブは、100年の折り返し点で、その規模の大きさ故の問題に直面し、その質が問われているといった課題を考えさせられた地区大会であったと思います。
- ・多摩青年会議所(JC)OB総会(2月27日)に田中、赤尾両会員と出席しました。交流とRCの紹介・PRを行ってきました。
- ・「TAMA・デ・アート 2004」絵画展の表彰式に

参加し、多摩グリーンロータリークラブ会長賞を授与致しました。多摩市主催の美術展で、3月14日までパルテノン多摩にて開催されていますので、是非お出掛けになって下さい。

- ・「多摩市社会福祉協議会 法人化30周年記念式典」(2月29日)に招かれ、出席しました。当クラブも社会福祉活動に対して、感謝状を頂き、表彰されました。
- ・週報に「ロータリーの友」からの記事が掲載されています。クラブ間の『負担の公平化』についての提案です。是非読んで下さい。また、同誌3月号に投稿の赤尾会員の記事もお読み下さい。

◎幹事報告 幹事 藤本 吉文

- ・東京調布RCより例会変更の案内が来ています。MUの方は事務局に確認してください。
- ・多摩市社会福祉協議会が法人化され30周年の節目の年です。これを記念して福祉祭り「福祉バザー」を開催し、収益を地域福祉に活用したいとの事です。皆さまからのバザー出品を募りますので、ご協力を御願います。
- ・東京多摩RCより「陶芸作家 辻 清明氏」の卓話の案内が来ていますので、回覧いたします。

◎次年度会務報告 次年度会長 菊池 敏

- ・被選クラブ協議会を去る2月25日開催しました。役員・理事・各委員長の皆さまには活動計画書の原稿の提出を3月7日までに事務局にFAXまたはメールにてご提出下さい。

◎多摩青年会議所ご挨拶 理事長 馬場 孝幸様

先日、多摩青年会議所OB会に大松会長始め3名の方にご参加頂き有難う御座いました。お礼方々本日参加させて頂きました。私ども来る9月11日に30周年

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491
E-mail tamagr@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階

【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30

【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文

【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝

【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澁川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰機

の記念式典をサンリオ・ピューロランドにて開催いたしますので、皆様是非ご参加を頂きたくお願い致します。今後の交流を重ねてお願いします。

【委員会報告】

◎出席報告 出席委員会 小林 正

- ・会員総数 43名
- ・出席義務者数 42名(出席免除者2名)
- ・出席者数 33名
- ・欠席者数 9名(事前MU0名)
- ・出席率 78.57%
- ・欠席者：藤原 正範、平野 行廣、伊藤 英也、小泉 博、関岡 俊二、菅井 信夫、高木 淳光、高村 弘、高野 範城
- ・補填MU：小城 章員 3/2 東京多摩 RC
澄川 昇 2/12 地区新会員セミナー

2/18 最終訂正出席率 78.57%

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会 宮村 宏

- 大松 誠二 宮崎先生、卓話をよろしく。肥満防止のコツを教えてください。青年会議所の皆様、ようこそ。
- 藤本 吉文 宮崎教授の卓話、楽しみです。お客様ようこそ。
- 杉野志保子 加藤さん、お医者様の紹介ありがとうございます。昨日はありがとうございました。
- 内田 吾 春、娘が大学受験しました。7校受けて7勝でした。やっと一安心です。
- 伊澤ケイ子 4/11-12日お花見親睦旅行多くのご参加をお願いします。楽しい会になりますように。
- 足立潤三郎 宮崎教授、お忙しいところありがとうございます。卓話よろしくをお願いします。青年会議所の皆様、ようこそ。
- 阿部 華歌 今日桃の節句、おひな祭り。我が家にも三人官女がおります。お内裏様のような素敵なお友達がみつかりますように祈ってます。
- 宮村 宏 急用で早退させていただきます。申し訳ありません。
- 小林 正 今日はお雛様。うちは女の子がいなくて、寂しいものです。昔、女の子だった人が1人、私の家に住んでますが・・・
- 萩生田政由 まだ、まださむいですね！早く、春よ、来てー！！
- 津守 弘範 ウォーキングの卓話楽しみにしております。

本日の合計¥16,000 (累計¥651,561)

◎親睦活動委員会 委員長 伊澤 ケイ子

- ・花見バス旅行(移動例会)の案内です。4月11日から12日の1泊2日です。楽しい旅行にしたいと思いますので、皆様奮ってご参加下さい。

◎国際奉仕委員会 委員長吉沢 洋景

- ・国際大会についてですが、赤尾会員のご尽力で当日の宿泊場所が決定しました。有難う御座いました。参加に際し、現地までの行き方等についてのアンケートやイベント申し込みなど幾つかの打合せ事項が有りますので、次回例会終了後お集まり下さい。

◎表彰・米山奨学委員会 委員長小城 章員

- ・米山功労者(第4回マルチプル) 海野 榮一 会員
- ・米山功労者(第1回) 根本 泰守 会員
田島真由美 会員

◎卓話『ウォーキングと健康』

東京学芸大学教育学部教授医学博士 宮崎 義憲様



ウォーキングの四大健康効果

- ① ダイエット効果(肥満予防効果)
30分の早足歩きは、一日最低運動量と心得よ！
 - ② 疲労回復効果(肩こり・腰痛予防効果)
30分の早足歩きは、肩や腰のマッサージと心得よ！
 - ③ 大脳覚醒効果(ボケ予防効果)
30分の早足歩きは、脳のボケ予防の運動と心得よ！
 - ④ ストレス解消効果(心因性疾患予防効果)
ウォーキングは、心の健康を保つ薬と心得よ！
- 以上について、スライドを交え分りやすくお話を頂きました。

◎点鐘

会長 大松 誠二
(例会担当：正房 正孝)

ポール・ハリスを我々の心に！ Part 34

祖父が亡くなった後、ポールはプリンストン大学での一年を終えると、祖母と夏を過ごすために家に帰った。予期していたことだが、祖母は物思いに耽ったりしていることがあった。祖母は時々、悩んでいるように家の周りを歩いていた。

しばしば夕方になると、祖母は果樹園を散歩しようとポールを誘ってくれた。祖母はウェストヒルの陰に沈む夕日を見るのが大好きで「雲の色が真珠色から桃色、バラ色そして燃えるような赤に変わっていく」と教えてくれた。

ある時、果樹園の小道を歩いていると、あまり話してくれたことのない祖父の思い出話をしてくれた。

「ポール、私は 60 年以上もの間、お前のお祖父さんの愛情を受けてきたのだから果報者だと思っているのよ。パパの一生は決して楽なものではなく、何時も苦勞の連続で、悲しい時には一緒に悲しんだものよ。子供は 3 人も亡くしたけれどみんな可愛い子供だったの。昔は人生の価値とは何かと考えたこともあったが、それは兎も角、人生にはやらなければならない義務と仕事があるものよ。時々、お前がお祖父さんにとってどんなに大切な存在だったのか、分かっているのかなと思うことがあるよ。以前、お祖父さんは自分の一生は失敗だと思っていたようよ。知っての通り、お祖父さんはお前のお父さんに望みを掛けていたのだよ。だから教育のために随分お金を使ったの。だけどうまく行かなかったので失望落胆していたの。丁度そんな時、お前が我が家に授けられたので、お祖父さんはすべての望みをお前に託したのだよ。ポール、お前はお祖父さんをガッカリさせては駄目よ。お祖父さんの希望通り、一生懸命勉強して立派な人になってね。」西の空が、さあっと色あせていくのを今一度じっくり見てから、祖母は踵を返し、ポールはその後について、

夕日に映える道を我が家へと急いだ。

その年の秋、ポールはプリンストン大学に戻らず、ウェスト・ラトランドのシェルドン大理石会社に 1 年契約で働くことにしたが、更に上職に進級して 1 年経った時、祖母の指示で西部に法律の勉強に行くことになった。

祖母は余生を娘のメリーとその夫ジョージの家で送ることになったため、ポールはいよいよ



独立しなければならないことがはっきりした。思い出深い祖父母の家は二度と家族の戻る場所ではなくなった。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

ポール・ハリスを我々の心に！ Part 35

祖母との別れの日が 9 月のはじめの明るく清らかな朝だったが、ポールの心は暗く物悲しい気持ちで一杯だった。祖母とポールは別れの時間まで思い一杯の我が家の食堂で過ごすことにした。

祖母は気分が落ち着くと話し始めた。

「私がこんな目に遭うのは初めてではないんだよ。こんなことは何度も経験したよ。今日、お前に話さなくちゃいけないのは、お祖父さんがお前に抱いていた大きな望みなんだよ。ポール、どんなにお祖父さんがお前に目を掛けていたか、忘れないだろうね」

ポールは、「はい、よく分かっています。お祖父さんの信頼を裏切らずに、お祖父さんが決めてくれた高い目標に恥じない行動を取るつもりです」と答えた。

祖母と別れて、あの懐かしい我が家を去って 1 年 1 ヶ月、アイオワ大学法学部の学生だったポールは、ジョージ伯父さんから「祖母昨夜逝く」との電報を受け取った。祖母は全く亡くなるような気配はなく、夜分床に就いたまま、二度と目覚めることはなかったとのことだった。

ポールは葬儀には帰らず、両親と家族が列席した。祖母の遺体は祖父の眠るウォリングフォードのグリーンヒル墓地に埋葬された。祖母はキリストの復活を信じていたが、祖母には人見知りの所があった。従って、復活祭の救世主が見えたことを知らせるゲイブリエル天使のラッパが鳴り響く頃、祖母は天国で祖父をはじめ亡くなった子供達家族に囲まれて幸せなことだろうとポールは想像した。

ポールは、祖母の葬儀があった 10 月のその日のことを何度も心に描いてみた。丘や山腹の燃えるような紅葉の照り映える中を、葬列はくねくねと流れるオッター川の川辺に沿って、ゆっくり下って行ったことだろう。ポールはあたかも葬儀に列席していたかのように、祖母との最後のお別れの光景を心に描いてみている。祖母の胸の上にあるやつれた手、忘れることのできない祖母の勲章、即ち不具になった手首の膨らんだ骨が目に見えた。祖父母はお互いに協力し合って、60 年以上にも及ぶ厳しい人生の十字架を支えてきたが、もし、この十字架がなかったらこれまでやって来られなかっただろうし、祖父母は十字架を憎むどころか愛していたものとポールは思った。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

『ロータリー知識』 入門編
「ロータリーへの愛着」 P.ハリス

ロータリアンは所属のクラブに極めて忠実です。中には30年以上も例会に連続出席した記録の持ち主もいます。それどころかクラブ全員が100回以上も連続出席した記録を持ち続けているクラブもあります。人々の中には、ロータリーの会員であることを人生最高の誇りにしている人もあります。

何故こんなに愛着をもつのでしょうか。それは、人間が人を愛するのと同じ現象なのです。人間があらゆる形式や信条を脱ぎ捨てた時に一番必要になるものは友情です。

ロータリアンは政治や宗教で一線を画することはありません。イスラム教徒、佛教徒、キリスト教徒やユダヤ教徒でも仲良く一緒に食事をします。カーストという身分制度が確立しているインドでも、他の国と同様にロータリーは盛んです。ロータリーに改宗ということはありません。議論の余地のある問題に就いては、会員各自に発言権があります。ロータリーの懐は非常に広いものです。従って友好的な人、他人の意見を尊重する人、利己的でない人ならあらゆる種類の人が会員になることが出来ます。

ロータリーは友情という礎石の上に建てられており、「寛容の精神」で団結しています。従ってもし、寛容の精神を失えば各クラブが持っている原子力エネルギーの働きによって、クラブは木っ端微塵に吹っ飛ぶことでしょう。この寛容の精神とは、祖父の一生を支えた魂であり、私の信念も其処に根ざしているのです。

—ポール・ハリス著「ロータリーへの道」より—
(コーナー担当：遠藤二郎)

★「ロータリーの友」拾い読みコーナー★

3月号 《言いたい聞きたい》より

ロータリー財団、米山奨学会の表彰制度の再考を
大手前RC 曾我部 律夫 氏

(第2660地区 大阪府 耳鼻咽喉科医)

ロータリーには、たくさんすばらしいプログラムがあります。ロータリー財団には、世界中の飢餓や貧困に対する人道援助、疾病予防対策、各種の奨学金制度があり、日本では、米山奨学会があります。いずれも、各国のロータリアンからの寄付金が、その財源であり原動力となっています。

これらロータリアンの奉仕への熱意に対し、例えば寄付金の拠出などですが、ロータリー財団からはポール・ハリス・フェローの表彰、米山奨学会からは米山功労者などの表彰制度があります。

それらの表彰制度について、考えてみたいのです。私自身も、ポール・ハリス・フェロー、米山功労者になった時、例会で会長から表彰の品物を受け取り、面はゆい思いをしました。どうやって保管しようか？表彰状を壁に飾る？いずれも結局は箱に入れ、戸棚の奥に押し込み、現在まで二度と、陽の目を見ることはありません。

皆さまはどうされていますか？私の周りを見聞きしても、身につけたり、事務所に飾っている人はいません。してみると、例会で呼ばれ、表彰を受けるときだけの道具でしかなかったのでしょうか。それでは、品物の購入費用、配布のための費用と労力は、全く無駄になってしまいます。

もとより、ポール・ハリス・フェロー、米山功労者を目指して拠金を始めたのは、その趣旨に賛同し全くの善意からのものであって、少なくとも表彰を期待して、という人は、まずいないのではと思います。そのはじめから欲していない、そして保管に困る表彰の品が、果たして必要でしょうか？

現在も、ポール・ハリス・フェローは、表彰の回を重ねるごとに、ピンの石が高価なものになり、米山功労者も感謝状、メダル、盾、ピン・ブローチ（中央についている石が、高級なものになっていきます）が与えられることになっています。

私は、この表彰制度の廃止を提案します。理由は、寄付した個人にとって、全く不必要なものであること、それに表彰のための各種費用は、全額実際の奉仕活動に使用すべきであるからです。

不況で会員も減少し、寄付金も集まりにくい昨今、廃止でどれだけの費用が節約できるのか、具体的な数字は分かりませんが、日本中、また世界中を考えればかなりの金額になるはずで

それにより、一人でも多くの奨学生を採用し、一本でも多くの井戸を掘り、一人でも多くの子どもに、予防接種を……が、私の希望です。



(コーナー担当：正房 正孝・高木 淳光)